

平成30年度病害虫発生予察注意報第2号

平成30年6月1日
愛 知 県

作物名：カンキツ
病害虫名：チャノキイロアザミウマ

- 1 発生地域 県内全域
- 2 発生程度 多い
- 3 注意報発表の根拠

5月下旬に行った、ほ場周囲における本種の生息数調査（ウンシュウミカン22ほ場のイヌマキ（防風垣））において、10新梢の払い落とし虫数は12.7頭（平年6.1頭、前年8.8頭）、発生ほ場率は81.8%（平年67.7%、前年62.5%）で、過去10年と比較して払い落とし虫数は最も多く、発生ほ場率は3番目に多かった。

4 防除上注意すべき事項

- (1) 本種が6月から7月に加害すると、果梗部に灰色～灰褐色のリング状の傷が生じるので、防除適期である成虫の発生ピーク予測日（表1）を参考に防除を実施する。なお、5月31日名古屋地方気象台発表の1か月予報によれば、6月の気温は高いと予想されており、今後平年より1℃高く推移すると、ピーク予測日が1日程度早くなるので、今後の気温の推移を踏まえて防除日を設定する。
- (2) カンキツの防除にあたっては、表2を参考にIRACコードが同じ薬剤を連続して使用することは避ける。
- (3) 本種は寄主範囲が広く、イヌマキやサンゴジュ、チャ、ツバキにも好んで寄生するので、これらを防風垣にしているほ場や近くにこれらの植物が存在するほ場では被害を受けやすい。このため、このようなほ場では周辺の寄主植物の発生状況にも注意する。

表1 チャノキイロアザミウマ成虫の発生ピーク予測日（月/日）

	愛西	南知多	名古屋	豊田	大府	岡崎	蒲郡	豊橋	伊良湖	新城	稲武
第1世代	5/17	5/15	5/11	5/15	5/12	5/16	5/13	5/14	5/15	5/17	6/6
第2世代	6/13	6/13	6/8	6/13	6/10	6/13	6/11	6/13	6/12	6/15	7/6
（前年）	6/20	6/21	6/16	6/21	6/17	6/22	6/20	6/20	6/19	6/25	6/16 [※]
前年差	7日早	8日早	8日早	8日早	7日早	9日早	9日早	7日早	7日早	10日早	10日早 [※]
第3世代	7/5	7/7	6/30	7/6	7/3	7/6	7/4	7/6	7/6	7/7	7/30

各地のアメダス平均気温から有効積算温度を利用して予測。※稲武については、第1世代の前年ピーク日と前年差。

5月31日までは実測値を、それ以降は平年値（豊橋、大府は前年値）を用いて計算。

表2 かんきつのチャノキイロアザミウマに対する主な防除薬剤

農薬名	使用時期	希釈倍数	使用回数	IRAC コード
アドマイヤー顆粒水和剤	収穫14日前まで	5000～10000倍	3回以内	4A
モスピラン顆粒水溶剤	収穫14日前まで	2000～4000倍	3回以内	4A
ベストガード水溶剤	収穫7日前まで	1000～2000倍	3回以内	4A
スタークル/アルバリン 顆粒水溶剤	収穫前日まで	1000～2000倍	3回以内	4A
コテツフロアブル	収穫前日まで	2000～6000倍	2回以内	13*
コルト顆粒水和剤	収穫前日まで	3000倍	3回以内	9(B)
ダントツ水溶剤	収穫前日まで	2000～4000倍	3回以内	4A
ディアナWDG	収穫前日まで	5000～10000倍	2回以内	5

IRACコードは殺虫剤の作用機構による分類を示す。

IRACコードの詳細は、http://www.jcpa.or.jp/labo/pdf/2017/mechanism_irac.pdfを参照する。

薬剤の散布に当たっては、ラベルの表示事項を守るとともに、他の作物や周辺環境への飛散防止に努める。

5 連絡先

愛知県農業総合試験場環境基盤研究部病害虫防除室

電話 0561-62-0085 内線471